

令和4年度 第3回学校運営協議会 議事録

- 1 開催日時 : 令和5年2月20日(月) 14:00~15:30
- 2 開催場所 : 池田高等学校 会議室
- 3 出席者 : 協議会委員 5名
教職員 5名

4 内容

- (1) 令和4年度学校経営計画の評価案(達成状況)について
- (2) 令和5年度学校経営計画の計画案について
- (3) 保護者からの意見調査の現状報告について

5 協議事項

- (1) 令和4年度学校経営計画の評価案(達成状況)について
 - ・校長より、配付資料に基づき達成状況の説明
 - 1) ICT環境の整備を進め、プロジェクターを12台更新、教員用タブレットを7台追加した。教員用タブレットは希望する全教員への配備を達成した。
 - 2) 継続的な授業改善に取り組み、学校教育自己診断「授業はよく理解できる」の肯定率が87%(前年度比3%増)を達成した。
 - 3) 主体的で対話的な授業の推進をおこなった。学校教育自己診断「自分の考えをまとめたり、発表することがよくある」の肯定率が76%を達成した。
 - 4) 自学自習力の育成に注力したが、学校教育自己診断「自主学習を1日2時間以上する」の肯定率は42%(前年度比1%減)にとどまった。
 - 5) 充実した進路指導体制により、学校教育自己診断「学校の進路指導や進路に関する情報に納得できる」の肯定率は89%を達成した。
 - 6) 各学年での計画的な人権教育を進め、学校教育自己診断「命や人権の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」の肯定率は91%を達成した。
 - 7) 学校教育自己診断「学習と部活動の両立」の肯定率は75%(前年度比10%増)を達成した。
 - 8) 朝読書の取り組みや校長文庫の設置など読書習慣の確立を図ったが、学校教育自己診断「月間平均2冊以上読書する」の肯定率は23%にとどまった。
 - 9) 教育相談委員会が効果的に機能したことにより、学校教育自己診断「悩みや相談に親身になって応じてくれる先生が多い」の肯定率は86%(前年度比6%増)を達成した。
 - 10) 新型コロナの影響により、海外語学研修等の国際理解教育は低調であった。
 - 11) 老朽化した学校施設の改善を進め、天井の雨漏りや体育館床等、課題箇所の修繕をおこなった。
 - 12) 学校ホームページの改修やカラーパンフレットの作成等、学校広報活動の改善を図り、学校説明会等の参加者数はのべ1600人(前年度比250人増)を達成した。

・意見交換

委員 学校施設の改善、とくにトイレ施設の改修状況と改修にかかる財源についてはどうなっているのか。

学校 今年度は便座の洋式化と温水化を進め、また、すべての手洗いの自動化を完了させた。改修の財源については、本館の一部トイレは府費による改修がおこなわれたが、それ以外のトイレに関しては、卒業生の寄付金などの学校独自財源で賄っているのが現状である。

委員 財源については、府に対して要望の声をあげ続けることと学校独自の寄付を募ることが必要であると思う。ただ、トイレが老朽化していることによる具体的なデメリットを明確にしたうえで要望を行う姿勢が重要かと思う。

委員 府PTA協議会からも府に対して要望をあげていきたい。

(2) 令和5年度学校経営計画の計画案について

・**校長**より、配付資料に基づき計画案の説明

- 1) めざす学校像の文言をスクール・ミッションで謳っているものと一致させた。
- 2) 授業力に関する中期的目標として、「ICT活用」「協働的な学び」「個別最適な学び」の実践・推進を強調している。5年度は、学校教育自己診断「生徒端末を効果的に活用している」の肯定率目標を80%以上（今年度78%）、「自主学习時間平均2時間以上」の肯定率目標を42%以上（今年度42%）に設定する。
- 3) 「人間力」育成に関する中期的目標として、「市民としての規範意識」の育成を新たに盛り込んだ。また、学校行事や部活動を通して、「主体性」の育成を目標とすることを明確化した。5年度は、新設する生徒支援部を中心にして、教育相談体制を強化する。
- 4) 広報体制に関する中期的目標として、「効果的な情報発信」の推進を強調した。5年度は、広報活動の充実を通して、志願倍率1.2倍を目標とする。

・意見交換

委員 学校広報については、SNSの利用は検討しないのか。

学校 SNSの効果的な利用の難しさ、担当教員の負担の増大を理由として、現時点では利用を考えていない。学校ホームページを強化する方向で考えている。

委員 セクシュアル・マイノリティーに関する教員の意識はどうなっているか。

学校 教員人権研修などの学習機会を通して、教員の意識醸成は高い水準で進んでいると考えている。標準服については、すでにレディースタイプのスラックスを選べるよう設定済みである。

委員 自学自習時間が想定よりも伸びていないとのことだが、その要因は探っているのか、探っていないのなら分析したうえで対応を考えるべきだと思う。また、保護者に協力を求めることも効果的ではないか。

学校 具体的な分析はできていない。家庭学習量の増加が確かな進路保障につながると考えているので、取り組みを進めていきたい。

委員 自学自習に関して、校内での自習環境の充実を引き続き求めたい。

委員 勉強を頑張ることが「かっこいい」という雰囲気、意識を醸成することが重要である。他の生徒に影響力を持つ「オピニオン・リーダー」的生徒の力は大きいものであり、うまく活かすことができればよいと思う。

(3) 保護者からの意見調査の現状報告について
問い合わせはなかった。

以上